

へ行くのだ」

『此の箱の中には何が這入つてゐるか調べてみ様』

謄寫版刷の生蝕記と詩集が中には這入つてゐた。

新吉は二十分ばかりして警察を出た。

下駄の齒に雪が窶つて、歩るきにくうて不可なかつた。

村の青年が雪搔きをしてゐた

中山の停車場に着いた時、後から合羽を着た巡査が一人追いて来て、自轉車から降りるのを見た。

ビシヨ濡れにオーバーも着物も濡れてゐた。

まだ汽車が来るのに二時間も待たなければならなかつた。

足袋を脱いで火鉢に乾かした。

五六人が酒を飲んだり、無駄を聞いたりしてゐた。

新吉は観音經を言つたりした。